



KAWAI 平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成31年2月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社河合楽器製作所

コード番号 7952 URL http://www.kawai.co.jp/

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 河合 弘隆

問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長執行役員管理本部長 (氏名) 伊藤 照幸 TEL 053-457-1227

四半期報告書提出予定日 平成31年2月12日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	53,487	3.3	2,834	33.3	3,003	24.4	1,548	△6.4
30年3月期第3四半期	51,769	6.7	2,127	12.7	2,414	17.4	1,655	16.8

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 1,537百万円 (△32.2%) 30年3月期第3四半期 2,268百万円 (709.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	181.27	-
30年3月期第3四半期	188.88	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	51,888	24,459	47.0
30年3月期	52,911	23,311	43.9

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 24,369百万円 30年3月期 23,217百万円

添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(追加情報)」に記載のとおり、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を適用し、表示方法の変更を行っております。30年3月期の数値は、当該表示方法の変更を遡って適用した後の数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	-	0.00	-	50.00	50.00
31年3月期	-	0.00	-	-	-
31年3月期(予想)	-	-	-	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	72,500	2.4	3,700	34.6	3,900	27.1	2,100	7.6	245.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期3Q	9,011,560株	30年3月期	9,011,560株
② 期末自己株式数	31年3月期3Q	460,554株	30年3月期	477,463株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期3Q	8,542,162株	30年3月期3Q	8,763,512株

※当社は「信託型従業員持株インセンティブ・プラン（E-Ship）」を導入しております。野村信託銀行株式会社（カワイ従業員持株会信託）が所有する当社株式を期末自己株式数に含めて記載しております。

（31年3月期3Q 44,100株）

また、野村信託銀行株式会社（カワイ従業員持株会信託）が所有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。（31年3月期3Q 53,111株）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、政府の経済対策により雇用情勢や企業収益の改善がみられ緩やかな回復基調が続きましたが、世界経済は、米中の貿易摩擦や新興国経済の減速懸念に伴い金融市場が不安定になるなど、先行き不透明な状況で推移しました。

このような経営環境のもと、当社グループは中期経営計画「Resonate2018」の最終年度として、100年ブランドとしての企業価値向上の推進と長期的な安定成長を目指し、掲げている主要戦略と基盤づくりに取り組みました。

こうした中で、昨年11月に開催された『第10回浜松国際ピアノコンクール』において、前回に引き続き、公式ピアノである当社フラッグシップモデル『SK-EX』を弾いたジャン・チャクムル氏（トルコ）が優勝、また第五位・第六位入賞者も『SK-EX』を選択するという当社にとって大きなトピックがありました。

国内では店舗戦略として「カワイ仙台」をリニューアルオープンし、これまで継続的に取り組んできた中核都市におけるお客様とのタッチポイントの拡大を進め、『Shigeru Kawai』をはじめとした高付加価値販売に取り組みました。

海外では、米国やドイツでの直営店展開の強化により鍵盤楽器の販売拡大を図るとともに、中国や東南アジアでは、当社の強みである販売・音楽教室・調律・生産の四位一体のノウハウを活かして、中長期的な成長に向けた展開を推進しました。

商品政策としては、消音機能と高性能の響板スピーカーを搭載したハイブリッドアップライトピアノ『AURES（オーレス）』を開発し、大型のスピーカーに匹敵する迫力と、響板ならではの豊かな響きを実現し、お客様がよりピアノライフを楽しめる新製品を市場に投入しました。

また創立90周年の節目に合わせ創設した、『Shigeru Kawai国際ピアノコンクール』の第2回を開催し、17の国と地域から239名のピアニストがエントリーしてハイレベルな演奏が繰り広げられ、大きな反響を頂きました。引き続き次世代を担うピアニストの発掘・育成や、世界の音楽文化の振興にも力を入れてまいります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は 53,487百万円（前年同期比 1,718百万円増）、営業利益は 2,834百万円（前年同期比 707百万円増益）、経常利益は 3,003百万円（前年同期比 589百万円増益）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 1,548百万円（前年同期比 106百万円減益）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(楽器教育事業)

楽器教育事業は、主力のピアノは中国での伸長をはじめ、欧州、北米、日本で販売が堅調に推移しました。デジタルピアノは、グランドピアノアクションを搭載したハイブリッドデジタルピアノ『NOVUS NV10』や、最上位モデルの『CA』シリーズが欧州や日本などで順調に推移しました。この結果、売上高は 43,593百万円（前年同期比 2,445百万円増）となり、営業利益は 2,044百万円（前年同期比 704百万円増益）となりました。

(素材加工事業)

素材加工事業は、半導体関連部品や自動車の内装部品の受注が減少したことなどにより、売上高は 7,835百万円（前年同期比 504百万円減）となり、営業利益は 858百万円（前年同期比 40百万円減益）となりました。

(その他)

その他の事業は、医療機関向けIT機器の販売減少により、売上高は 2,059百万円（前年同期比 222百万円減）となりましたが、ソフトウェア開発の受託増などにより、営業損失は 49百万円（前年同期比 6百万円改善）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、投資有価証券の減少などにより 51,888百万円（前期末比 1,022百万円減）となりました。

負債合計は、短期借入金及び長期借入金の減少などにより 27,428百万円（前期末比 2,171百万円減）となりました。

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益などにより 24,459百万円（前期末比 1,148百万円増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の連結業績予想につきましては、平成30年11月8日に公表いたしました内容から変更はありません。

なお、業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものでありますが、実際の業績は今後発生する様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,979	10,580
受取手形及び売掛金	7,344	7,160
商品及び製品	4,985	6,092
仕掛品	1,452	1,689
原材料及び貯蔵品	1,981	2,170
その他	1,857	1,643
貸倒引当金	△162	△188
流動資産合計	28,438	29,148
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,059	4,940
機械装置及び運搬具(純額)	2,116	2,070
土地	6,355	6,353
その他(純額)	813	764
有形固定資産合計	14,344	14,130
無形固定資産		
のれん	106	26
その他	690	772
無形固定資産合計	797	799
投資その他の資産		
投資有価証券	6,660	5,438
繰延税金資産	1,188	919
その他	1,608	1,574
貸倒引当金	△127	△122
投資その他の資産合計	9,330	7,810
固定資産合計	24,473	22,740
資産合計	52,911	51,888
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,317	4,432
短期借入金	6,676	6,072
未払法人税等	447	276
賞与引当金	897	364
製品保証引当金	67	74
その他	4,792	4,221
流動負債合計	17,198	15,442
固定負債		
長期借入金	1,506	1,203
環境対策引当金	29	27
退職給付に係る負債	9,909	9,778
資産除去債務	610	603
その他	344	373
固定負債合計	12,401	11,986
負債合計	29,599	27,428

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,122	7,122
資本剰余金	1,257	1,257
利益剰余金	15,609	16,728
自己株式	△1,112	△1,071
株主資本合計	22,877	24,037
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	578	576
為替換算調整勘定	327	238
退職給付に係る調整累計額	△565	△482
その他の包括利益累計額合計	339	332
非支配株主持分	93	90
純資産合計	23,311	24,459
負債純資産合計	52,911	51,888

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	51,769	53,487
売上原価	38,383	38,962
売上総利益	13,385	14,525
販売費及び一般管理費	11,258	11,690
営業利益	2,127	2,834
営業外収益		
受取利息	52	52
固定資産賃貸料	33	31
為替差益	250	70
その他	110	149
営業外収益合計	447	303
営業外費用		
支払利息	38	38
寄付金	78	34
その他	42	62
営業外費用合計	159	134
経常利益	2,414	3,003
特別利益		
固定資産売却益	1	0
受取補償金	33	7
特別利益合計	34	8
特別損失		
固定資産除却損	11	16
固定資産売却損	2	0
投資有価証券売却損	—	475
特別損失合計	14	492
税金等調整前四半期純利益	2,434	2,519
法人税等	770	967
四半期純利益	1,664	1,551
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,655	1,548

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	1,664	1,551
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	629	△1
為替換算調整勘定	△135	△103
退職給付に係る調整額	87	83
持分法適用会社に対する持分相当額	22	7
その他の包括利益合計	604	△14
四半期包括利益	2,268	1,537
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,258	1,540
非支配株主に係る四半期包括利益	10	△3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	楽器教育	素材加工	計				
売上高							
外部顧客への売上高	41,148	8,339	49,487	2,282	51,769	—	51,769
セグメント間の 内部売上高又は振替高	0	274	274	285	559	△559	—
計	41,148	8,613	49,761	2,567	52,328	△559	51,769
セグメント利益 又は損失(△)	1,340	898	2,239	△55	2,183	△56	2,127

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連事業、金融関連事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△56百万円には、セグメント間取引消去50百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△107百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	楽器教育	素材加工	計				
売上高							
外部顧客への売上高	43,593	7,835	51,428	2,059	53,487	—	53,487
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1	342	343	287	630	△630	—
計	43,594	8,177	51,771	2,346	54,118	△630	53,487
セグメント利益 又は損失(△)	2,044	858	2,902	△49	2,853	△18	2,834

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連事業、金融関連事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△18百万円には、セグメント間取引消去67百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△85百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。